



街角で見つけた小さなアルミ屋さんには、アルミニウムにこだわる人たちの思

いがあふれています。

思わず立ち寄りたくなる お気に入りのステッキ専門店

有楽町で見つけた 小さなお店

東京都心のJR有楽町駅前に立つ東京交通会館。この地下一階、飲食店や各県のアンテナショップが連なる一角にステッキ専門の「ステッキ工房シナノ」があります。人が2名入れればいっぱいになるほどこぢんまりとした店内にずらり並ぶのは、国内の自社工場で1本1本丁寧に製造されている色とりどりの美しいアルミ製のステッキ。エレガントだったり、カジュアルだったり、ダンディなデザインだったり。ファッション性が高い豊富なラインナップで、これまで気に入ったデザインがなくステッキを持つのをためらっていたご年配の方々もよく来店するのだとか。古希や喜寿の贈り物にも喜ばれ、また、和柄のものなどは日本土産として海外からの観光客に大人気です。



長きに渡り培われた アルミ技術が生きている

このお店を運営する株式会社シナノは、実は長野県で1919(大正8)年に創業されたスキーポール(ストックともいう)

のメーカーで、100年以上にわたり身体を支えるポール加工技術を磨いてきました。ポールに使用する素材は竹から始まり、その後アルミニウムが採用されるようになったのは1968年のこと。アルミニウムの強度と軽さが、雪山という過



軽くてもしっかり体を支えます

アルミ製ステッキは耐久性があり、メンテナンスをしていけば長く使えます。新デザインも次々登場するので、お気に入りの1本を見つけてくださいね。



有楽町店店長
山崎 照子さん

酷な環境の中で使うスキーポールに適しているというのが理由でした。そして翌年には社内でアルミニウムの熱処理、表面処理も行えるようにし、国内初の一貫生産体制を確立したのです。

ステッキの製造がスタートしたのは1999年で、主体となるシャフト(ポール)部分にはスキーポールと同じく国産アルミ合金の6061S合金や7075合金を使用しています。さらに、握りやすさを追求した「スリムネック」も考案しました。これはネック部分を細くすることで、グリップを握る時に人差し指と中指でここを挟んでも指と指の間が広がって痛くならないように工夫されています。また、折り畳んで携帯できるステッキは、折り畳みジョイント部分に精巧な切削加工を施し、スムーズに折り伸ばしができるうえガタつきを軽減。ジョイント部分を長めにし、安定感を持たせています。

1 本のステッキに込められた 作り手のこだわり

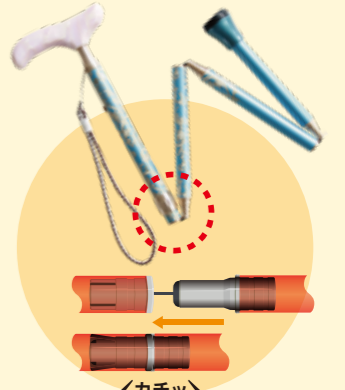
株式会社シナノでは、他にもトレッキング用やウォーキング用、トレイルランニング用のポールなどを開発、製造してきました。どの製品も使用するシチュエーションを考えながら、握りやすさと丈夫さを追求し、アルミ製ポールのさまざま

なノウハウが生かされ、プロのスポーツ選手たちにも絶大な信用を得ているといえます。

“オンリーワンのモノづくり”をコンセプトに、アルミ製のステッキを丹念に作り込むステッキ工房。作る人の思いがこもった1本1本のステッキは、持つ人に歩く楽しさをプレゼントしてくれることでしょう。

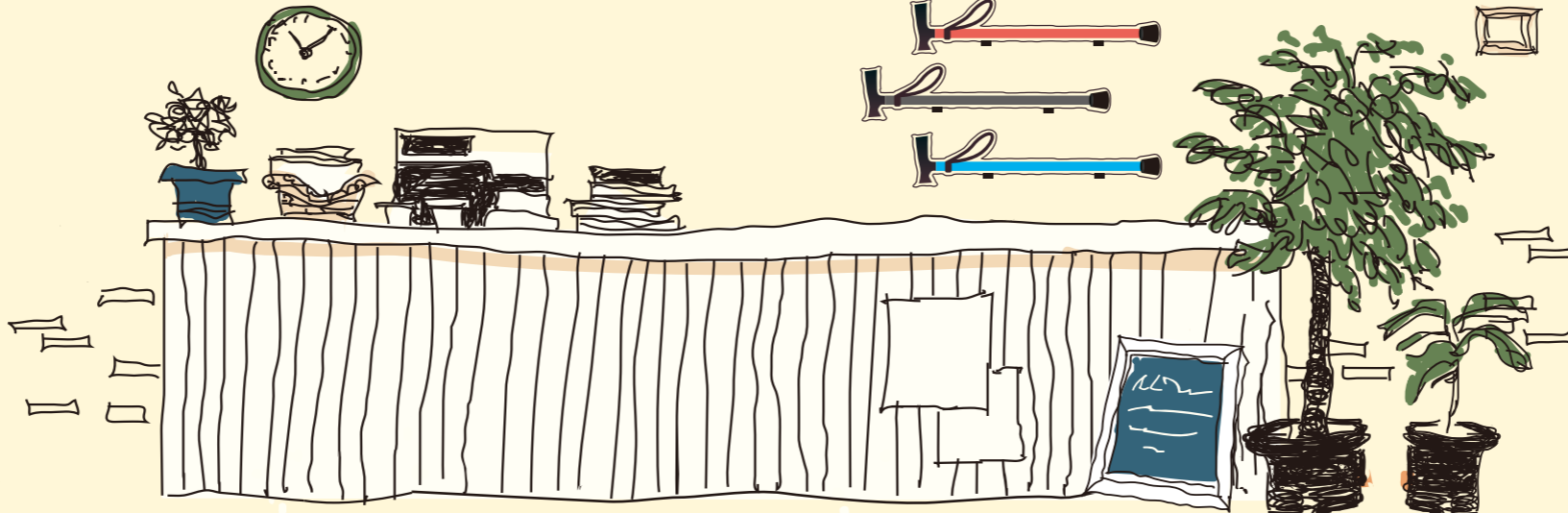
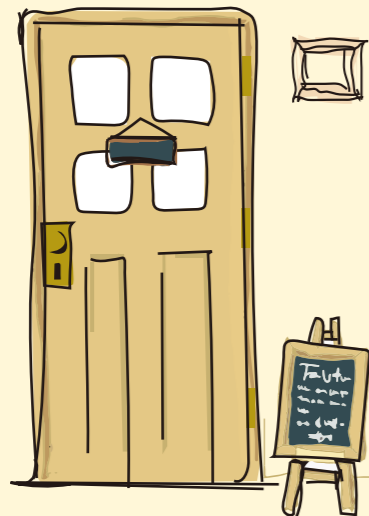


無理なく自然に、しっかりとグリップが握れる「スリムネック」



折り畳みジョイントは、部品の形を工夫し、安定感を持たせている。

世界に一つの
ステッキは
家族のプレゼント



Access



ステッキ工房 シナノ 有楽町店

東京都千代田区有楽町 2-10-1
東京交通会館地下1階
03-3218-3033
日曜定休
<https://sinano.co.jp/news/shop.php>